

特集2 ● 震災から学ぶ～あの日あの時から～

《南三陸町・のぞみ福祉作業所》

● 障害者の可能性を引き出す創造的な活動——震災の経験を乗り越えて

のぞみ福祉作業所（<https://www.nozomipaperfactory.com/>）は、障害のある方々の自己決定と自由な活動を大切にしている福祉施設です。従来の作業所とは異なり、利用者一人ひとりが自分のペースで活動に



のぞみ福祉作業所の生産品

参加できる環境を整えていると所長の尾形透さんは語ります。タフティングやアート制作などの創造的な活動を通じて、利用者の可能性を最大限に引き出す取り組みが特徴的です。作業を強制するのではなく、自分で選び、楽しみながら取り組める環境づくりに注力しています。

東日本大震災では、施設としても多くの困難に直面しました。震災前に行っていた作業はなくなり、利用者の方のお宅の庭にコンテナを置かせていただき、みんなが集まれる場所から畑作業から始まりました。現在の主作業の一つになっている「紙漉き」にはたくさんの方が支援に入り、たくさんの出会いの中から「NOZOMI PAPER」が生まれました。また、震災前の生活介護事業所としての活動も大きく変わり、現在では多様な個性を尊重する包括的な支援体制へと進化しています。主任の田中青志さんは、利用者たちの確かな成長を日々実感していると語り、震災を乗り越えたからこそ生まれた新たな可能性に手応えを感じています。

● 地域と共に歩む包括的な支援

のぞみ福祉作業所は、南三陸町で唯一の福祉サービス事業所として、精神障害や知的障害のある方々を広く受け入れています。重度・軽度にかかわらず、それぞれが自分のできることに取り組み、無理のない形で社会との関わりを深めています。地域住民や外部デザイナーとの協働にも力を入れており、利用者が作品を制作・展示・販売することで、社会とのつながりを実感できる場となっています。こうした活動を通じて、利用者の社会性や自己表現の力が自然に育まれています。



のぞみ福祉作業所の外観



被災直後ののぞみ福祉作業所



津波が天井近くまで入った
のぞみ福祉作業所の施設内部

さらに、この施設は災害時の避難所としての機能も備えており、地域の安全と支援の拠点としても重要な役割を果たしています。利用者たちの笑顔と創造性は、困難を乗り越える力強さを象徴しているようです。この施設は、障害のある方々の可能性を信じ、彼らの力を最大限に引き出す、まさに南三陸町の希望の場所といえるでしょう。

（共同執筆：芳野友紀）